

再利用対象物の保管場所最低必要面積算出基準

別 表

対象延床面積 用途	10,000㎡未満	10,000㎡以上50,000㎡未満	50,000㎡以上100,000㎡未満	100,000㎡以上
事 務 所	4㎡以上	$4\text{㎡} + \frac{(\text{延床面積} - 10,000\text{㎡})}{10,000\text{㎡}} \times 3\text{㎡以上}$	$16\text{㎡} + \frac{(\text{延床面積} - 50,000\text{㎡})}{10,000\text{㎡}} \times 2\text{㎡以上}$	26㎡以上
飲 食 店				
学 校				
病院・診療所				
店 舗	4㎡以上	$4\text{㎡} + \frac{(\text{延床面積} - 10,000\text{㎡})}{10,000\text{㎡}} \times 4\text{㎡以上}$		40㎡以上
ホ テ ル				
文化・娯楽施設等	3㎡以上	$3\text{㎡} + \frac{(\text{延床面積} - 10,000\text{㎡})}{10,000\text{㎡}} \times 2\text{㎡以上}$	$11\text{㎡} + \frac{(\text{延床面積} - 50,000\text{㎡})}{10,000\text{㎡}} \times 1\text{㎡以上}$	16㎡以上

注1 上記用途に該当しない一定規模以上の事業用建築物については、事前に協議すること。

注2 対象延床面積は、共用部分を除くこと。

注3 主たる用途に附随する事務所等は、主たる用途とみなす。

注4 対象延床面積が10,000㎡未満の複合建築物の最低必要面積は、4㎡以上とすること。

注5 対象延床面積が10,000㎡以上の複合建築物の最低必要面積は、各用途別の対象延床面積があるものと仮定し、各々の最低必要面積を算出し、その面積に「各用途別面積÷対象延床面積」の比率に乘じ、その最低必要面積を合計した面積（以下「合計面積」という。）以上とすること。ただし、合計面積4㎡未満となった場合の最低必要面積は、4㎡以上とする。

注6 算出に当たっては、小数点第2位を四捨五入すること。

保管場所面積計算表（1万㎡以上の建築物のときに使用してください。）

※ 対象延床面積に共用部分を含まないでください。

用途	(I) 各用途別 対象延床面積	(II) 〔建築物すべてがその用途とした場合の、最低必要面積〕			(III) 1棟に占める 用途別の割合 (a) (b) (c) / (d)	(IV) 最低必要面積 { (II) × (III) }
		(d)が1万㎡以上5万㎡未満	(d)が5万㎡以上10万㎡未満	(d)が10万㎡以上		
事務所		(d)	(d)		(a)	
飲食店		$4 \text{ m}^2 + \frac{(\quad - 10,000 \text{ m}^2)}{10,000 \text{ m}^2} \times 3 \text{ m}^2$	$16 \text{ m}^2 + \frac{(\quad - 50,000 \text{ m}^2)}{10,000 \text{ m}^2} \times 2 \text{ m}^2$	26㎡	()	. m ²
学校					()	
病院・診療所					(d)	
小計	(a)	= m ²	= m ²			
店舗		(d)	(d)		(b)	
ホテル		$4 \text{ m}^2 + \frac{(\quad - 10,000 \text{ m}^2)}{10,000 \text{ m}^2} \times 4 \text{ m}^2$	$4 \text{ m}^2 + \frac{(\quad - 10,000 \text{ m}^2)}{10,000 \text{ m}^2} \times 4 \text{ m}^2$	40㎡	()	. m ²
小計	(b)	= m ²	= m ²			
文化・娯楽施設等	(c)	(d)	(d)		(c)	
		$3 \text{ m}^2 + \frac{(\quad - 10,000 \text{ m}^2)}{10,000 \text{ m}^2} \times 2 \text{ m}^2$	$11 \text{ m}^2 + \frac{(\quad - 50,000 \text{ m}^2)}{10,000 \text{ m}^2} \times 1 \text{ m}^2$	16㎡	()	. m ²
		= m ²	= m ²			
合計	(d)	_____	_____	_____	1	(*4㎡未満は4㎡) . m ² 以上

↑ * (I) 欄は小数点第3位を四捨五入

↑ * (II) 欄は小数点第3位を四捨五入

* (IV) 欄は小数点第2位を四捨五入 ↑

※ この計算表は、1万㎡以上の建築物のときに、下記事項に留意して使用してください。

- 1 1万㎡以上で用途が単一の建築物の場合は、次の手順で計算してください。・・・(III)欄は使用しないでください。
 - ① 該当する用途の対象延床面積を (I) 欄に記入し、その数値を合計 (d) にも記入してください。
 - ② ①の数値を (II) 欄の用途と面積が計算式の (d) に記入し、計算 (小数点第3位四捨五入) してください。
 - ③ ②の数値を小数点第2位を四捨五入して (IV) 欄に記入してください。・・・この数値が保管場所最低面積となります。
- 2 1万㎡以上の用途が複合する建築物 (再利用対象物の保管場所最低必要面積算出基準の注5) の場合は、次の手順で計算してください。
 - ① 各用途別を対象延床面積を (I) 欄に記入し、合計した数値を (d) に記入してください。
 - ② ①の数値を (II) 欄の各用途と面積が該当する計算式の (d) に記入し、計算 (小数点第3位四捨五入) してください。ただし、(d) が10万㎡以上の場合は、表に記入しある数値となるので、計算する必要はありません。・・・この数値が各用途別に対象延床面積 (d) があるものと仮定し、算出した各々の最低必要面積となります。
 - ③ (I) の各用途別の面積 [(a)、(b)、(c)] と合計面積 [(d)] を (II) 欄の (a)～(d) の該当するところに記入してください。・・・これが1棟に占める用途別の割合となります。
 - ④ 各用途別に②の数値に③の割合を乗じ、小数点第2位を四捨五入して (IV) 欄に記入し、合計してください。・・・この数値が保管場所最低必要面積となります。